

# 四 半 期 報 告 書

(第38期第1四半期)

自 2022年1月1日  
至 2022年3月31日

日本たばこ産業株式会社

(E00492)

# 目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報 .....	1
第1 企業の概況 .....	1
1 主要な経営指標等の推移 .....	1
2 事業の内容 .....	1
第2 事業の状況 .....	2
1 事業等のリスク .....	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 .....	2
3 経営上の重要な契約等 .....	8
第3 提出会社の状況 .....	9
1 株式等の状況 .....	9
(1) 株式の総数等 .....	9
(2) 新株予約権等の状況 .....	9
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 .....	9
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移 .....	9
(5) 大株主の状況 .....	10
(6) 議決権の状況 .....	10
2 役員の状況 .....	11
第4 経理の状況 .....	12
1 要約四半期連結財務諸表 .....	13
(1) 要約四半期連結財政状態計算書 .....	13
(2) 要約四半期連結損益計算書 .....	15
(3) 要約四半期連結包括利益計算書 .....	16
(4) 要約四半期連結持分変動計算書 .....	17
(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	21
2 その他 .....	38
第二部 提出会社の保証会社等の情報 .....	39

[四半期レビュー報告書]

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年4月28日
【四半期会計期間】	第38期第1四半期（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）
【会社名】	日本たばこ産業株式会社
【英訳名】	JAPAN TOBACCO INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 寺島 正道
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門四丁目1番1号
【電話番号】	03（6636）2914（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 Corporate Communications 担当 福田 浩之
【最寄りの連絡場所】	東京都港区虎ノ門四丁目1番1号
【電話番号】	03（6636）2914（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 Corporate Communications 担当 福田 浩之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第1四半期 連結累計期間	第38期 第1四半期 連結累計期間	第37期
会計期間	自2021年 1月1日 至2021年 3月31日	自2022年 1月1日 至2022年 3月31日	自2021年 1月1日 至2021年 12月31日
売上収益 (百万円)	547,366	581,505	2,324,838
税引前四半期利益又は税引前利益 (百万円)	156,342	174,699	472,390
四半期(当期)利益 (百万円)	114,039	124,602	340,181
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益 (百万円)	113,786	124,110	338,490
四半期(当期)包括利益 (百万円)	243,127	230,570	540,258
資本合計 (百万円)	2,705,275	2,983,147	2,886,081
資産合計 (百万円)	5,398,190	5,747,354	5,774,209
基本的1株当たり四半期(当期)利益 (円)	64.13	69.94	190.76
希薄化後1株当たり四半期(当期)利益 (円)	64.10	69.91	190.68
親会社所有者帰属持分比率 (%)	48.69	50.56	48.65
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	12,354	38,983	598,909
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△22,449	△22,726	△97,499
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△127,449	△116,767	△353,138
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	424,306	655,260	721,731

- (注) 1. 当社グループは、国際会計基準（以下「IFRS」という）に基づいて連結財務諸表を作成しております。
2. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
3. 百万円未満を四捨五入して記載しております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社、連結子会社228社及び持分法適用会社13社）が営む事業の内容について、前事業年度の有価証券報告書に記載した内容から重要な変更はありません。

また、主な関係会社における異動もありません。

なお、当社グループは当年度より、たばこ事業の事業運営体制を一本化することに伴い、従来「国内たばこ事業」、「海外たばこ事業」、「医薬事業」、「加工食品事業」の4区分としていた報告セグメントを「たばこ事業」、「医薬事業」、「加工食品事業」の3区分に変更しております。

詳細は、「第4 経理の状況 1. 要約四半期連結財務諸表 要約四半期連結財務諸表注記 5. 事業セグメント (1) 報告セグメントの概要」をご参照ください。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

新型コロナウイルス感染拡大により、引き続きいずれの事業につきましても、各国の行政や当局からの方針・指示を踏まえ事業を行っておりますが、現時点において事業継続に支障はありません。今後も、新型コロナウイルス感染拡大による影響については、為替の動向及び各国の行政や当局の対応とともに注視・精査が必要です。新型コロナウイルス感染症の収束時期や将来的な影響を現時点で見通すことは困難であり、今後の状況によっては当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

また、当社は、昨今のロシア・ウクライナ情勢を踏まえ、ロシア市場における当社グループの全ての新規の投資及びマーケティング活動を停止することとし、それに基づく対応を実施してまいりました。今後、事態の長期化等により、当社グループによる安定的かつ持続的な事業運営に著しい支障が生じる蓋然性を踏まえ、ロシア市場におけるたばこ事業の運営のあり方について、当社グループ経営からの分離を含めた選択肢の検討を行っております。なお、現時点において、今後の見通しや業績への影響については合理的に見積ることができません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

経営者の視点による経営成績等の状況に関する主な注記は以下のとおりです。  
なお、以下、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において判断したものです。

(非GAAP指標について)

当社グループは、当社が適用する会計基準であるIFRSにおいて定義されていない非GAAP指標を追加的に開示しております。非GAAP指標は、当社グループが中長期的に持続的な成長を目指す上で、各事業運営の業績を把握するために経営管理にも利用している指標であり、財務諸表の利用者が当社グループの業績を評価する上でも、有用な情報であると考えております。

調整後営業利益

営業利益（損失）から買収に伴い生じた無形資産に係る償却費、調整項目（収益及び費用）を除いた調整後営業利益を開示しております。調整項目（収益及び費用）はのれんの減損損失、リストラクチャリング収益及び費用等です。

また、為替一定ベースの調整後営業利益の成長率も追加的に開示しております。当社グループは、為替一定ベースの調整後営業利益の成長率における、中長期に亘る年平均mid to high single digit成長を全社利益目標としており、その達成を目指してまいります。為替一定ベースとは、たばこ事業における当期の自社たばこ製品売上収益又は調整後営業利益から、前年同期の為替レートをを用いて換算・算出した為替影響及び一定の方法を用いて算出した一部市場のインフレに伴う売上又は利益の増加分を除いたものです。

なお、当社グループは、超インフレ経済下にある子会社の財務諸表について、IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」（以下、IAS第29号）に定められる要件に従い、会計上の調整を加えておりますが、為替一定ベースの自社たばこ製品売上収益及び調整後営業利益にはIAS第29号の影響は含めておりません。

(自社たばこ製品売上収益について)

たばこ事業においては、自社たばこ製品に係る売上収益を開示しております。自社たばこ製品売上収益には、物流事業及び製造受託等に係る売上収益は含まれておりません。

(RRPについて)

RRPは、加熱式たばこ及びE-Vapor製品等、喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品（Reduced-Risk Products）を指しております。

加熱式たばこは、たばこ葉を使用し、たばこ葉を燃焼させずに、加熱等によって発生するたばこベイパー（たばこ葉由来の成分を含む蒸気）を愉しむ製品です。当社製品ポートフォリオでは、高温加熱型のHeated tobacco sticks (HTS)、低温加熱型のInfused-tobacco capsules (Infused) があります。

一方、E-Vapor製品は、たばこ葉を使用せず、装置内もしくは専用カートリッジ内のリキッド（液体）を電気加熱させ、発生するベイパー（蒸気）を愉しむ製品です。

経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容は以下のとおりです。

(1) 経営成績の状況

① 全社実績

(単位：億円)

	2021年12月期 第1四半期 連結累計期間	2022年12月期 第1四半期 連結累計期間	増減率
売上収益	5,474	5,815	6.2%
調整後営業利益	1,781	1,949	9.4%
営業利益	1,601	1,784	11.4%
四半期利益（親会社所有者帰属）	1,138	1,241	9.1%

<売上収益>

売上収益は、すべての事業での増収により、前年同期比6.2%増の5,815億円となりました。為替一定ベースのcore revenue<sup>(注1)</sup>は、前年同期比3.8%増となりました。

<調整後営業利益>

為替一定ベースの調整後営業利益は、すべての事業での増加により、前年同期比4.5%増となりました。為替影響を含めた調整後営業利益は、現地通貨に対して円安となったことで、たばこ事業においてポジティブな為替影響を受けたこと等から、前年同期比9.4%増の1,949億円となりました。

<営業利益>

営業利益は、調整後営業利益の増益等により、前年同期比11.4%増の1,784億円となりました。

<親会社の所有者に帰属する四半期利益>

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、法人所得税費用が増加したものの、営業利益の増益等により、前年同期比9.1%増の1,241億円となりました。

(注1) 為替一定ベースのcore revenueは、為替一定ベースの自社たばこ製品売上収益、医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益の合計。

② セグメント別実績

当社グループは当年度より、たばこ事業の事業運営体制を一本化することに伴い、従来「国内たばこ事業」、「海外たばこ事業」、「医薬事業」、「加工食品事業」の4区分としていた報告セグメントを「たばこ事業」、「医薬事業」、「加工食品事業」の3区分に変更しております。

セグメント区分の変更に伴い、前年度のセグメント情報については、当年度の表示形式に合わせて組み替えて表示しております。

[たばこ事業]

(単位：億本、億円)

たばこ事業	2021年12月期 第1四半期 連結累計期間	2022年12月期 第1四半期 連結累計期間	増減率
総販売数量	1,270	1,285	1.2%
Combustibles販売数量 <sup>(注1)</sup>	1,253	1,266	1.0%
RRP販売数量 <sup>(注2)</sup>	17	20	16.0%
自社たばこ製品売上収益	4,731	5,020	6.1%
調整後営業利益	1,823	1,973	8.3%

<総販売数量><sup>(注3)</sup>

総販売数量は、複数市場における総需要の減少があったものの、Global Travel Retail (免税市場) や新興市場における販売数量の増加等により、前年同期比1.2%増の1,285億本となりました。Combustibles販売数量及びRRP販売数量は、それぞれ前年同期比1.0%、16.0%増となりました。RRP販売数量は、日本において数量及びシェアが引き続き伸長しています。市場シェアは、主要市場であるイタリア・スペイン・台湾・トルコ・フィリピン・ルーマニアを含めた様々な市場で伸長しました。

<自社たばこ製品売上収益及び調整後営業利益>

自社たばこ製品売上収益及び調整後営業利益は、ポジティブな単価上昇効果及び為替影響等により、それぞれ前年同期比6.1%増、8.3%増となりました。RRP関連売上収益<sup>(注2)</sup>は、主に日本におけるRRP販売数量の増加等により、前年同期比2.4%増の191億円となりました。

為替一定ベースの自社たばこ製品売上収益及び調整後営業利益は、ともに前年同期比3.4%増となりました。

(注1) 製造受託/水たばこ/加熱式たばこ/無煙たばこ/E-Vaporを除く可燃性のたばこ製品。

(注2) RRP販売数量にはデバイス・関連アクセサリ等は含まれておりませんが、RRP関連売上収益にはデバイス・関連アクセサリ等に係る売上収益が含まれております。

(注3) 総需要及び市場シェアは当社推計です。

[たばこ事業 クラスター別内訳] (注4)

たばこ事業における各クラスターの実績は以下のとおりです。

(単位：億円)

	2021年12月期 第1四半期 連結累計期間	2022年12月期 第1四半期 連結累計期間	増減率
Asia			
自社たばこ製品売上収益	1,941	1,929	△0.6%
調整後営業利益	767	757	△1.3%
Western Europe			
自社たばこ製品売上収益	1,224	1,252	2.3%
調整後営業利益	578	612	6.0%
EMA			
自社たばこ製品売上収益	1,566	1,839	17.5%
調整後営業利益	478	604	26.3%

(注4) 当社グループのたばこ事業をより深く理解していただくために、当該セグメントを3つのクラスター (Asia、Western Europe、EMA) に分けしております。Asiaはアジア全域、Western Europeは西欧地域、EMAは東欧、中近東、アフリカ、トルコ、南北アメリカ大陸及びすべての免税市場を含んでおります。Asiaには台湾、日本、フィリピン等、Western Europeにはイギリス、イタリア、スペイン等、EMAにはトルコ、ルーマニア、ロシア等を含んでおります。

※ 円に対する為替レートは、以下のとおりです。

為替レート	2021年12月期 第1四半期 連結累計期間	2022年12月期 第1四半期 連結累計期間	増減	増減率
100円/USD	0.94	0.86	△0.08	9.7%高
100円/RUB	70.08	73.74	3.67	5.0%安
100円/GBP	0.68	0.64	△0.04	6.7%高
100円/EUR	0.78	0.77	△0.02	2.1%高
100円/CHF	0.85	0.79	△0.06	7.4%高
100円/TWD	26.46	24.05	△2.41	10.0%高
100円/TRY	6.95	11.95	5.00	41.9%安
100円/PHP	45.53	44.29	△1.24	2.8%高



## 〔医薬事業〕

(単位：億円)

医薬事業	2021年12月期 第1四半期 連結累計期間	2022年12月期 第1四半期 連結累計期間	増減率
売上収益	197	213	8.3%
調整後営業利益	42	46	8.0%

## ＜売上収益及び調整後営業利益＞

売上収益は、当社の連結子会社である鳥居薬品株式会社の増収により、前年同期比8.3%増となりました。  
調整後営業利益は、研究開発費の増加があったものの、増収により、前年同期比8.0%増となりました。

## 〔加工食品事業〕

(単位：億円)

加工食品事業	2021年12月期 第1四半期 連結累計期間	2022年12月期 第1四半期 連結累計期間	増減率
売上収益	338	357	5.5%
調整後営業利益	3	4	26.4%

## ＜売上収益及び調整後営業利益＞

売上収益は、主に冷食・常温事業製品の販売が伸長したことにより、前年同期比5.5%増となりました。  
調整後営業利益は、原材料費の高騰やネガティブな為替影響があったものの、増収及び前年同期に計上した子会社の工場火災に係る除却損の剥落により、前年同期比26.4%増となりました。

## (2) 財政状態及びキャッシュ・フローの状況

### ① 財政状態の状況

#### [資産]

当第1四半期連結会計期間末現在の資産合計は、前年度末に比べ269億円減少し、5兆7,474億円となりました。これは、配当金やたばこ税の支払いに伴う現金及び現金同等物の減少があったこと等によるものです。

#### [負債]

当第1四半期連結会計期間末現在の負債合計は、前年度末に比べ1,239億円減少し、2兆7,642億円となりました。これは、短期借入金の増加があったものの、営業債務及びその他の債務の減少並びに未払地方たばこ税の減少があったこと等によるものです。

#### [資本]

当第1四半期連結会計期間末現在の資本合計は、前年度末に比べ971億円増加し、2兆9,831億円となりました。これは、在外営業活動体の換算差額の増加があったこと等によるものです。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末現在の現金及び現金同等物は、前年度末に比べ665億円減少し、6,553億円となりました（前年同期末残高4,243億円）。

#### [営業活動によるキャッシュ・フロー]

当第1四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、390億円の収入（前年同期は124億円の収入）となりました。これは、国内外におけるたばこ税及び法人税の支払い、営業債務及びその他の債務の支払いがあったものの、主にたばこ事業による安定したキャッシュ・フローの創出があったこと等によるものです。

#### [投資活動によるキャッシュ・フロー]

当第1四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、227億円の支出（前年同期は224億円の支出）となりました。これは、有形固定資産及び無形資産の取得による支出があったこと等によるものです。

#### [財務活動によるキャッシュ・フロー]

当第1四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、1,168億円の支出（前年同期は1,274億円の支出）となりました。これは、短期借入金による収入があった一方で、配当金の支払いがあったこと等によるものです。

### (3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について前事業年度の有価証券報告書に記載した内容から重要な変更はありません。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について前事業年度の有価証券報告書に記載した内容から重要な変更はありません。

### (5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発費は、155億円です。

当第1四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

#### (6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

##### ① 資金需要

設備投資、運転資金、外部資源の獲得、借入の返済及び利息の支払い、配当金の支払い、自己株式の取得並びに法人税の支払い等に資金を充当しております。

##### ② 資金の源泉

主として営業活動によるキャッシュ・フロー、金融機関からの借入、社債及びコマーシャル・ペーパーの発行により、必要とする資金を調達しております。

##### <キャッシュ・フロー>

「(2) 財政状態及びキャッシュ・フローの状況 ②キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

##### <有利子負債>

###### (長期負債)

社債(1年内償還予定を含む)は、前年度末現在6,510億円、当第1四半期連結会計期間末現在6,746億円、金融機関からの長期借入金(1年内返済予定を含む)は、前年度末現在1,970億円、当第1四半期連結会計期間末現在1,980億円です。

###### (短期負債)

金融機関からの短期借入金は、前年度末現在706億円、当第1四半期連結会計期間末現在899億円です。コマーシャル・ペーパーの発行残高は、それぞれありません。

##### ③ 流動性

当社グループは、従来から営業活動により多額のキャッシュ・フローを得ており、今後も引き続き資金源になると見込んでおります。営業活動によるキャッシュ・フローは今後も安定的で、通常の事業活動における必要資金はまかなえると予想しております。また、当第1四半期連結会計期間末現在、国内・海外の主要な金融機関からのコミットメント融資枠があります。更に、コマーシャル・ペーパープログラム、アンコミットメントベースの融資枠、国内社債発行登録枠及びユーロMTNプログラム等があります。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000,000
計	8,000,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在 発行数(株) (2022年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2022年4月28日)	上場金融商品取引所名又は登録 認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	2,000,000,000	2,000,000,000	東京証券取引所 市場第一部(第1四半期会計期 間末現在) プライム市場(提出日現在)	(注)2
計	2,000,000,000	2,000,000,000	—	—

(注) 1. 当社の株式は、日本たばこ産業株式会社法第2条の規定により、当社が発行している株式(株主総会において決議することができる事項の全部について議決権を行使することができないものと定められた種類の株式を除く)の総数の3分の1を超える株式を政府が保有することとされております。

2. 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株です。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年1月1日～ 2022年3月31日	—	2,000,000	—	100,000	—	736,400

## (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

(2022年3月31日現在)

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 225,432,300	—	(注) 2
完全議決権株式 (その他)	普通株式 1,773,791,300	17,737,913	(注) 2
単元未満株式	普通株式 776,400	—	(注) 3
発行済株式総数	2,000,000,000	—	—
総株主の議決権	—	17,737,913	—

- (注) 1. 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が33,600株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数336個が含まれております。
2. 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株です。
3. 自己株式が76株含まれております。

## ② 【自己株式等】

(2022年3月31日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
日本たばこ産業株式会社	東京都港区虎ノ門四丁目1番1号	225,432,300	—	225,432,300	11.27
計	—	225,432,300	—	225,432,300	11.27

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出後、当第1四半期累計期間において、役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、四半期連結財務諸表規則）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下、IAS第34号）に準拠して作成しております。

また、要約四半期連結財務諸表は、百万円未満を四捨五入して記載しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2022年1月1日から2022年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年3月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

	注記	前年度	当第1四半期
		(2021年12月31日)	(2022年3月31日)
		百万円	百万円
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物	6	721,731	655,260
営業債権及びその他の債権		456,587	445,368
棚卸資産		563,182	583,431
その他の金融資産		17,254	35,228
その他の流動資産		562,034	524,756
小計		2,320,789	2,244,043
売却目的で保有する非流動資産		500	1,496
流動資産合計		2,321,289	2,245,540
非流動資産			
有形固定資産	7	755,843	760,139
のれん	7	2,060,965	2,102,765
無形資産	7	307,152	297,001
投資不動産		4,985	4,931
退職給付に係る資産		53,177	58,843
持分法で会計処理されている投資		41,721	40,116
その他の金融資産		108,658	112,425
繰延税金資産		120,419	125,595
非流動資産合計		3,452,920	3,501,815
資産合計		5,774,209	5,747,354



	前年度 (2021年12月31日)	当第1四半期 (2022年3月31日)
注記	百万円	百万円
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	555,777	483,795
社債及び借入金	142,901	162,515
未払法人所得税等	30,794	49,970
その他の金融負債	28,342	39,660
引当金	24,858	30,698
その他の流動負債	717,653	611,657
流動負債合計	1,500,326	1,378,294
非流動負債		
社債及び借入金	775,721	799,954
その他の金融負債	43,885	44,824
退職給付に係る負債	296,176	276,074
引当金	22,867	20,999
その他の非流動負債	179,195	172,749
繰延税金負債	69,959	71,313
非流動負債合計	1,387,803	1,385,913
負債合計	2,888,128	2,764,207
資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	736,400	736,400
自己株式	(490,899)	(490,806)
その他の資本の構成要素	(400,086)	(314,668)
利益剰余金	2,863,843	2,874,902
親会社の所有者に帰属する持分	2,809,258	2,905,828
非支配持分	76,823	77,319
資本合計	2,886,081	2,983,147
負債及び資本合計	5,774,209	5,747,354

## (2) 【要約四半期連結損益計算書】

	注記	前第1四半期	当第1四半期
		(自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	(自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
		百万円	百万円
売上収益	5, 9	547, 366	581, 505
売上原価		(216, 602)	(231, 280)
売上総利益		330, 764	350, 224
その他の営業収益	10	2, 409	2, 616
持分法による投資利益		558	816
販売費及び一般管理費等	11	(173, 603)	(175, 288)
営業利益	5	160, 129	178, 368
金融収益	12	3, 538	5, 150
金融費用	12	(7, 325)	(8, 819)
税引前四半期利益		156, 342	174, 699
法人所得税費用		(42, 303)	(50, 097)
四半期利益		114, 039	124, 602
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		113, 786	124, 110
非支配持分		252	492
四半期利益		114, 039	124, 602
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)	14	64.13	69.94
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	14	64.10	69.91

## 営業利益から調整後営業利益への調整表

	注記	前第1四半期	当第1四半期
		(自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	(自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
		百万円	百万円
営業利益		160, 129	178, 368
買収に伴い生じた無形資産に係る償却費		16, 270	16, 267
調整項目(収益)		(1, 329)	(1, 142)
調整項目(費用)		3, 021	1, 388
調整後営業利益	5	178, 091	194, 881

## (3) 【要約四半期連結包括利益計算書】

	注記	前第1四半期	当第1四半期
		(自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	(自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
		百万円	百万円
四半期利益		114,039	124,602
その他の包括利益			
純損益に振り替えられない項目			
その他の包括利益を通じて測定する金融資産の 公正価値の純変動		999	420
確定給付型退職給付制度の再測定額	13	11,793	20,055
純損益に振り替えられない項目の合計		12,791	20,474
後に純損益に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		116,617	84,605
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の変動額の 有効部分		(320)	889
後に純損益に振り替えられる可能性のある項目の合計		116,297	85,494
税引後その他の包括利益		129,088	105,968
四半期包括利益		243,127	230,570
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者		242,441	229,669
非支配持分		686	902
四半期包括利益		243,127	230,570

## (4) 【要約四半期連結持分変動計算書】

## 親会社の所有者に帰属する持分

注記	その他の資本の構成要素						
	資本金	資本剰余金	自己株式	新株予約権	在外営業活動 体の換算差額	キャッシュ・ フロー・ヘッ ジの公正価値 の変動額の有 効部分	その他の包括 利益を通じて 測定する金融 資産の公正価 値の純変動
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2021年1月1日 残高	100,000	736,400	(491,507)	1,252	(614,374)	122	7,224
四半期利益	—	—	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	116,195	(320)	996
四半期包括利益	—	—	—	—	116,195	(320)	996
自己株式の取得	—	—	(0)	—	—	—	—
自己株式の処分	—	—	45	(26)	—	—	—
配当金	8	—	—	—	—	—	—
支配の喪失とならない子 会社に対する所有者持分 の変動	—	—	—	—	—	—	—
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	—	—	—	—	—	—	—
その他の増減	—	—	—	—	—	(46)	—
所有者との取引額等合計	—	—	45	(26)	—	(46)	—
2021年3月31日 残高	100,000	736,400	(491,462)	1,226	(498,180)	(244)	8,221

## 親会社の所有者に帰属する持分

		その他の資本の構成要素				非支配持分	資本合計
		確定給付型退職給付制度の再測定額	合計	利益剰余金	合計		
注記		百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
	2021年1月1日 残高	—	(605,776)	2,783,718	2,522,834	76,660	2,599,495
	四半期利益	—	—	113,786	113,786	252	114,039
	その他の包括利益	11,783	128,654	—	128,654	434	129,088
	四半期包括利益	11,783	128,654	113,786	242,441	686	243,127
	自己株式の取得	—	—	—	(0)	—	(0)
	自己株式の処分	—	(26)	(19)	0	—	0
	配当金	—	—	(136,617)	(136,617)	(682)	(137,299)
8	支配の喪失とならない子会社に対する所有者持分の変動	—	—	(1)	(1)	—	(1)
	その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	(11,783)	(11,783)	11,783	—	—	—
	その他の増減	—	(46)	—	(46)	—	(46)
	所有者との取引額等合計	(11,783)	(11,855)	(124,854)	(136,664)	(682)	(137,347)
	2021年3月31日 残高	—	(488,977)	2,772,650	2,628,611	76,664	2,705,275

## 親会社の所有者に帰属する持分

注記	その他の資本の構成要素						
	資本金	資本剰余金	自己株式	新株予約権	在外営業活動 体の換算差額	キャッシュ・ フロー・ヘッ ジの公正価値 の変動額の有 効部分	その他の包括 利益を通じて 測定する金融 資産の公正価 値の純変動
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年1月1日 残高	100,000	736,400	(490,899)	1,202	(408,175)	(274)	7,161
四半期利益	—	—	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	84,176	889	444
四半期包括利益	—	—	—	—	84,176	889	444
自己株式の取得	—	—	(0)	—	—	—	—
自己株式の処分	—	—	94	(52)	—	—	—
配当金	8	—	—	—	—	—	—
支配の喪失とならない子 会社に対する所有者持分 の変動	—	—	—	—	—	—	—
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	—	—	—	—	—	—	(31)
その他の増減	—	—	—	—	—	(9)	—
所有者との取引額等合計	—	—	93	(52)	—	(9)	(31)
2022年3月31日 残高	100,000	736,400	(490,806)	1,149	(323,999)	607	7,575

親会社の所有者に帰属する持分

		その他の資本の構成要素			非支配持分	資本合計	
		確定給付型退職給付制度の再測定額	合計	利益剰余金	合計		
注記		百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	
	2022年1月1日 残高	—	(400,086)	2,863,843	2,809,258	76,823	2,886,081
	四半期利益	—	—	124,110	124,110	492	124,602
	その他の包括利益	20,049	105,559	—	105,559	409	105,968
	四半期包括利益	20,049	105,559	124,110	229,669	902	230,570
	自己株式の取得	—	—	—	(0)	—	(0)
	自己株式の処分	—	(52)	(41)	0	—	0
	配当金	—	—	(133,089)	(133,089)	(405)	(133,495)
	支配の喪失としない子会社に対する所有者持分の変動	—	—	—	—	—	—
	その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	(20,049)	(20,080)	20,080	—	—	—
	その他の増減	—	(9)	—	(9)	—	(9)
	所有者との取引額等合計	(20,049)	(20,141)	(113,051)	(133,098)	(405)	(133,504)
	2022年3月31日 残高	—	(314,668)	2,874,902	2,905,828	77,319	2,983,147

## (5) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

注記	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	百万円	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	156,342	174,699
減価償却費及び償却費	44,809	46,372
減損損失	1,303	110
受取利息及び受取配当金	(1,800)	(3,222)
支払利息	5,761	6,092
持分法による投資損益(益)	(558)	(816)
有形固定資産、無形資産及び投資不動産除売却損益(益)	31	(741)
営業債権及びその他の債権の増減額(増加)	(7,090)	22,904
棚卸資産の増減額(増加)	8,994	(2,262)
営業債務及びその他の債務の増減額(減少)	(61,006)	(77,420)
退職給付に係る負債の増減額(減少)	(9,332)	(5,369)
前払たばこ税の増減額(増加)	(17,270)	24,134
未払たばこ税等の増減額(減少)	(36,513)	(79,872)
未払消費税等の増減額(減少)	(9,165)	(5,667)
その他	(9,621)	(19,484)
小計	64,885	79,458
利息及び配当金の受取額	1,807	3,386
利息の支払額	(4,362)	(7,005)
法人所得税等の支払額	(49,975)	(36,856)
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,354	38,983
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資の取得による支出	(5,640)	(11,965)
投資の売却及び償還による収入	3,162	7,917
有形固定資産の取得による支出	(18,977)	(16,386)
投資不動産の売却による収入	697	352
無形資産の取得による支出	(3,140)	(3,236)
定期預金の預入による支出	—	(0)
定期預金の払出による収入	50	1,252
関連会社株式の売却による収入	1,114	—
その他	286	(659)
投資活動によるキャッシュ・フロー	(22,449)	(22,726)



注記	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	百万円	百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー		
支払配当金	8 (131,819)	(129,249)
非支配持分への支払配当金	(756)	(314)
非支配持分からの払込みによる収入	8	13
短期借入金及びコマーシャル・ペーパーの増減額 (減少)	10,212	17,849
長期借入による収入	—	34
長期借入金の返済による支出	(204)	(208)
リース負債の返済による支出	(4,889)	(4,892)
自己株式の取得による支出	(0)	(0)
非支配持分からの子会社持分取得による支出	(1)	—
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	(127,449)	(116,767)
現金及び現金同等物の増減額 (減少)	(137,544)	(100,510)
現金及び現金同等物の期首残高	538,844	721,731
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響	23,006	34,039
現金及び現金同等物の四半期末残高	6 424,306	655,260

## 【要約四半期連結財務諸表注記】

### 1. 報告企業

日本たばこ産業株式会社（以下、当社）は、日本の会社法に従い、日本たばこ産業株式会社法に基づいて設立された株式会社であり、設立以来、日本に主な拠点を置いております。当社の登記されている本社及び主要な事業所の住所は、ウェブサイト（<https://www.jti.co.jp/>）で開示しております。

当社及びその子会社（以下、当社グループ）の2022年3月31日に終了する第1四半期の要約四半期連結財務諸表は、2022年4月28日に代表取締役社長 寺嶋 正道によって承認されております。

### 2. 作成の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2の「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、四半期連結財務諸表規則第93条の規定により、国際会計基準に準拠して作成しております。

要約四半期連結財務諸表はIAS第34号に準拠して作成しており、年度の連結財務諸表で要求される全ての情報を含んでおりません。要約四半期連結財務諸表は、2021年12月31日に終了した前年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものです。

### 3. 重要な会計方針

当社グループの要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下の項目を除き、前年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

なお、当第1四半期の法人所得税費用は、見積年次実効税率を基に算定しております。

（会計方針の変更）

当社グループが当第1四半期より適用している基準及び解釈指針は以下のとおりです。

	IFRS	新設・改訂の概要
IFRS第3号	企業結合	参照する概念フレームワークのバージョン変更に対応した改訂
IFRS第9号	金融商品	金融負債の認識の中止に関する10%テストに含めるべき手数料及びコストの明確化

上記の基準等の適用が要約四半期連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

#### 4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、収益及び費用、資産及び負債の測定並びに四半期決算日現在の偶発事象の開示等に関する経営者の見積り及び仮定を含んでおります。これらの見積り及び仮定は過去の実績及び四半期決算日において合理的であると考えられる様々な要因等を勘案した経営者の最善の判断に基づいております。しかし、その性質上、将来において、これらの見積り及び仮定とは異なる結果となる可能性があります。

見積り及びその仮定は経営者により継続して見直されております。これらの見積り及び仮定の見直しによる影響は、その見積り及び仮定を見直した期間及びそれ以降の期間において認識しております。

当社グループの要約四半期連結財務諸表で認識する金額に重要な影響を与える見積り及び仮定は、原則として前年度と同様です。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大及び昨今のロシア・ウクライナ情勢については、現時点において会計上の見積り及び見積りを伴う判断に与える重要な影響はありません。

## 5. 事業セグメント

### (1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績の評価をするために、定期的に検討を行う対象となっている事業セグメントを基礎に決定されております。

当社グループは主に製造たばこ、医薬品、加工食品を製造・販売しており、「たばこ事業」、「医薬事業」、「加工食品事業」の3つを報告セグメントとしております。

なお、当社グループは当年度よりたばこ事業の事業運営体制を一本化することに伴い、従来「国内たばこ事業」、「海外たばこ事業」、「医薬事業」、「加工食品事業」の4区分としていた報告セグメントを「たばこ事業」、「医薬事業」、「加工食品事業」の3区分に変更しております。

セグメント区分の変更に伴い、前年度のセグメント情報については、当年度の表示形式に合わせて組み替えて表示しております。

「たばこ事業」は、国内及び海外での製造たばこの製造・販売を行っております。「医薬事業」は、医療用医薬品の研究開発・製造・販売を行っております。「加工食品事業」は、冷凍・常温加工食品、ベーカリー及び調味料等の製造・販売を行っております。

(2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は、以下のとおりです。取締役会は、収益と調整後営業利益を検討のうえ、セグメント業績を評価し、経営資源の配分を決定しております。金融収益、金融費用、法人所得税費用はグループ本社で管理されるため、これらの収益・費用はセグメントの業績から除外しております。なお、セグメント間の取引は概ね市場実勢価格に基づいております。

前第1四半期（自 2021年1月1日 至 2021年3月31日）

	報告セグメント				その他 (注2)	消去	連結
	たばこ	医薬	加工食品	計			
	百万円	百万円	百万円	百万円			
売上収益							
外部収益	493,581	19,659	33,793	547,033	333	—	547,366
セグメント間収益	64	—	0	64	1,282	(1,346)	—
収益合計	<u>493,644</u>	<u>19,659</u>	<u>33,793</u>	<u>547,096</u>	<u>1,615</u>	<u>(1,346)</u>	<u>547,366</u>
セグメント損益							
調整後営業利益(注1)	<u>182,302</u>	<u>4,228</u>	<u>326</u>	<u>186,856</u>	<u>(8,737)</u>	<u>(28)</u>	<u>178,091</u>

たばこ事業の外部収益のうち、自社たばこ製品売上収益は473,125百万円であり、自社たばこ製品売上収益と調整後営業利益のクラスター別の内訳は以下のとおりです。

	クラスター別			
	Asia	Western Europe	EMA	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
自社たばこ製品売上収益	194,144	122,395	156,585	473,125
調整後営業利益	76,729	57,752	47,821	182,302

Asia: 日本を含むアジア全域

Western Europe: 西欧地域

EMA: 東欧、中近東、アフリカ、トルコ、南北アメリカ大陸及びすべての免税市場

Asiaには台湾、日本、フィリピン等、Western Europeにはイギリス、イタリア、スペイン等、EMAにはトルコ、ルーマニア、ロシア等を含んでおります。

当第1四半期（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）

	報告セグメント				その他 (注2)	消去	連結
	たばこ	医薬	加工食品	計			
	百万円	百万円	百万円	百万円			
売上収益							
外部収益	523,936	21,294	35,664	580,893	611	—	581,505
セグメント間収益	59	—	0	59	1,226	(1,284)	—
収益合計	<u>523,994</u>	<u>21,294</u>	<u>35,664</u>	<u>580,952</u>	<u>1,837</u>	<u>(1,284)</u>	<u>581,505</u>
セグメント損益							
調整後営業利益(注1)	<u>197,343</u>	<u>4,567</u>	<u>412</u>	<u>202,322</u>	<u>(7,403)</u>	<u>(38)</u>	<u>194,881</u>

たばこ事業の外部収益のうち、自社たばこ製品売上収益は502,037百万円であり、自社たばこ製品売上収益と調整後営業利益のクラスター別の内訳は以下のとおりです。

	クラスター別			
	Asia	Western Europe	EMA	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
自社たばこ製品売上収益	192,925	125,200	183,912	502,037
調整後営業利益	75,723	61,210	60,410	197,343

Asia: 日本を含むアジア全域

Western Europe: 西欧地域

EMA: 東欧、中近東、アフリカ、トルコ、南北アメリカ大陸及びすべての免税市場

Asiaには台湾、日本、フィリピン等、Western Europeにはイギリス、イタリア、スペイン等、EMAにはトルコ、ルーマニア、ロシア等を含んでおります。

調整後営業利益から税引前四半期利益への調整表

前第1四半期（自 2021年1月1日 至 2021年3月31日）

	報告セグメント				その他 (注2)	消去	連結
	たばこ	医薬	加工食品	計			
	百万円	百万円	百万円	百万円			
調整後営業利益(注1)	182,302	4,228	326	186,856	(8,737)	(28)	178,091
買収に伴い生じた無形 資産に係る償却費	(16,270)	—	—	(16,270)	—	—	(16,270)
調整項目(収益)(注3)	1,327	—	—	1,327	1	—	1,329
調整項目(費用)(注4)	(1,754)	0	(1,069)	(2,823)	(198)	—	(3,021)
営業利益(損失)	165,606	4,228	(744)	169,091	(8,934)	(28)	160,129
金融収益							3,538
金融費用							(7,325)
税引前四半期利益							156,342

当第1四半期（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）

	報告セグメント				その他 (注2)	消去	連結
	たばこ	医薬	加工食品	計			
	百万円	百万円	百万円	百万円			
調整後営業利益(注1)	197,343	4,567	412	202,322	(7,403)	(38)	194,881
買収に伴い生じた無形 資産に係る償却費	(16,267)	—	—	(16,267)	—	—	(16,267)
調整項目(収益)(注3)	955	—	—	955	186	—	1,142
調整項目(費用)(注4)	(696)	—	(94)	(789)	(599)	—	(1,388)
営業利益(損失)	181,337	4,567	318	186,221	(7,815)	(38)	178,368
金融収益							5,150
金融費用							(8,819)
税引前四半期利益							174,699

- (注1) 調整後営業利益は、営業利益（損失）から買収に伴い生じた無形資産に係る償却費、調整項目（収益及び費用）を除外しております。
- (注2) 「その他」には、不動産賃貸に係る事業活動等及び報告セグメントに帰属しない企業広報経費や本社コーポレート部門運営費等の本社経費が含まれております。
- (注3) 調整項目（収益）の主な内訳は、以下のとおりです。

	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	百万円	百万円
リストラクチャリング収益	4	79
その他	1,325	1,063
調整項目(収益)	1,329	1,142

リストラクチャリング収益は「10. その他の営業収益」に内訳を記載しております。前第1四半期におけるその他の調整項目(収益)は、主に前年度以前に売却した関連会社株式に係る収益です。

- (注4) 調整項目（費用）の主な内訳は、以下のとおりです。

	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	百万円	百万円
リストラクチャリング費用	2,932	1,378
その他	89	10
調整項目(費用)	3,021	1,388

リストラクチャリング費用は「売上原価」に前第1四半期4百万円、当第1四半期122百万円、「販売費及び一般管理費等」に前第1四半期2,928百万円、当第1四半期1,256百万円含まれております。なお、「販売費及び一般管理費等」に含まれるリストラクチャリング費用は、「11. 販売費及び一般管理費等」に内訳を記載しております。



## 6. 現金及び現金同等物

当社グループのイラン子会社は、イランに対する国際的な制裁等のため同社によるイラン国外への資金の送金は困難な状況になっております。また、当社グループのカナダ子会社であるJTI-Macdonald Corp.（以下、JTI-Mac）は「Companies' Creditors Arrangement Act（企業債権者調整法）」の適用下にあり、通常の事業活動以外の資金の利用に一定の制限を受けております。当四半期末の「現金及び現金同等物」には、当社グループのイラン子会社及びJTI-Macが保有する現金及び現金同等物がそれぞれ88,012百万円、83,182百万円含まれております。

## 7. 有形固定資産、のれん及び無形資産

「有形固定資産」、「のれん」及び「無形資産」の帳簿価額の増減は、以下のとおりです。

	有形固定資産	のれん	無形資産
	百万円	百万円	百万円
帳簿価額			
2022年1月1日 残高	755,843	2,060,965	307,152
個別取得	16,192	—	3,714
投資不動産への振替	(32)	—	—
売却目的非流動資産への振替	(1,181)	—	—
減価償却費又は償却費	(26,372)	—	(19,977)
減損損失	(98)	—	(12)
減損損失の戻入	32	—	—
売却又は処分	(2,671)	—	(74)
在外営業活動体の換算差額	18,337	41,800	6,091
その他の増減	89	—	108
2022年3月31日 残高	760,139	2,102,765	297,001

## 8. 配当金

配当金の支払額は、以下のとおりです。

前第1四半期（自 2021年1月1日 至 2021年3月31日）

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
		百万円	円		
2021年3月24日 定時株主総会	普通株式	136,617	77	2020年12月31日	2021年3月25日

当第1四半期（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
		百万円	円		
2022年3月23日 定時株主総会	普通株式	133,089	75	2021年12月31日	2022年3月24日

## 9. 売上収益

### (1) 売上収益の分解

「売上収益」の分解は、以下のとおりです。なお、グループ会社間の内部取引控除後の金額で表示していません。

前第1四半期（自 2021年1月1日 至 2021年3月31日）

	報告セグメント				連結 百万円
	たばこ (注2)	医薬	加工食品	その他	
	百万円	百万円	百万円	百万円	
自社たばこ製品売上収益 (注1)	473,125	—	—	—	473,125
その他	20,456	19,659	33,793	333	74,241
合計	493,581	19,659	33,793	333	547,366

当第1四半期（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）

	報告セグメント				連結 百万円
	たばこ (注2)	医薬	加工食品	その他	
	百万円	百万円	百万円	百万円	
自社たばこ製品売上収益 (注1)	502,037	—	—	—	502,037
その他	21,899	21,294	35,664	611	79,468
合計	523,936	21,294	35,664	611	581,505

(注1) 自社たばこ製品売上収益には、物流事業及び製造受託等に係る売上収益は含まれておりません。

(注2) たばこ事業の自社たばこ製品売上収益のうち、RRPに係る売上収益は前第1四半期において18,624百万円、当第1四半期において19,062百万円です。RRPは、喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品(Reduced-Risk Products)を指しております。

### (2) 総取扱高

総取扱高と「売上収益」の関係は、以下のとおりです。

	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	百万円	百万円
総取扱高	1,921,632	2,030,261
たばこ税及びその他代理取引取扱高	(1,374,266)	(1,448,757)
売上収益	547,366	581,505

10. その他の営業収益

「その他の営業収益」の内訳は、以下のとおりです。

	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	百万円	百万円
有形固定資産、無形資産及び投資不動産の 売却益 (注)	338	1,327
その他 (注)	2,072	1,289
合計	2,409	2,616

(注) 各勘定に含まれるリストラクチャリング収益は、以下のとおりです。

	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	百万円	百万円
有形固定資産、無形資産及び投資不動産の 売却益	—	76
その他	4	2
合計	4	79

11. 販売費及び一般管理費等

「販売費及び一般管理費等」の内訳は、以下のとおりです。

	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	百万円	百万円
広告宣伝費	4,540	4,341
販売促進費	13,148	15,469
委託手数料(注)	12,996	14,839
従業員給付費用(注)	76,251	72,735
研究開発費	14,697	15,535
減価償却費及び償却費	26,164	26,328
減損損失(金融資産の減損損失を除く)(注)	1,303	123
有形固定資産、無形資産及び投資不動産の 除売却損(注)	828	1,329
その他(注)	23,676	24,588
合計	173,603	175,288

(注) 各勘定に含まれるリストラクチャリング費用は、以下のとおりです。

	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	百万円	百万円
従業員給付費用	1,676	232
減損損失(金融資産の減損損失を除く)	952	7
有形固定資産、無形資産及び投資不動産の 除売却損	167	956
その他	133	61
合計	2,928	1,256

12. 金融収益及び金融費用

「金融収益」及び「金融費用」の内訳は、以下のとおりです。

金融収益	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	百万円	百万円
受取配当金	2	62
受取利息	1,798	3,159
為替差益(注1)	1,697	1,873
その他	41	56
合計	3,538	5,150

  

金融費用	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	百万円	百万円
支払利息	5,761	6,092
従業員給付費用(注2)	576	689
正味貨幣持高に係る損失	522	761
その他	465	1,277
合計	7,325	8,819

(注1) 通貨デリバティブの評価損益は、為替差益に含めております。

(注2) 従業員給付費用は、従業員給付に関連する損益のうち、利息費用及び利息収益の純額です。

13. その他の包括利益

当第1四半期における「確定給付型退職給付制度の再測定額」には、退職給付に係る負債又は資産に関して、重要な市場変動等の影響により発生した再測定額が含まれております。

14. 1株当たり四半期利益

(1) 基本的1株当たり四半期利益の算定上の基礎

① 親会社の普通株主に帰属する利益

	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	百万円	百万円
親会社の所有者に帰属する四半期利益	113,786	124,110
親会社の普通株主に帰属しない利益	—	—
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益	<u>113,786</u>	<u>124,110</u>

② 期中平均普通株式数

	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	千株	千株
期中平均普通株式数	1,774,255	1,774,563

(2) 希薄化後1株当たり四半期利益の算定上の基礎

① 希薄化後の普通株主に帰属する利益

	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	百万円	百万円
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益	113,786	124,110
四半期利益調整額	(0)	—
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益	<u>113,786</u>	<u>124,110</u>

② 希薄化後の期中平均普通株式数

	前第1四半期 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
	千株	千株
期中平均普通株式数	1,774,255	1,774,563
新株予約権による普通株式増加数	762	692
希薄化後の期中平均普通株式数	<u>1,775,016</u>	<u>1,775,255</u>

15. 金融商品

(金融商品の公正価値)

償却原価で測定される金融商品の帳簿価額と公正価値は、以下のとおりです。

	前年度 (2021年12月31日)		当第1四半期 (2022年3月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
	百万円	百万円	百万円	百万円
長期借入金 (注)	196,970	198,290	197,989	198,587
社債 (注)	651,016	682,984	674,619	656,475

(注) 1年内返済及び償還予定の残高を含んでおります。

償却原価で測定する短期金融資産、短期金融負債については、公正価値は帳簿価額と近似しております。

長期借入金の公正価値については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

当社グループが発行する社債の公正価値は、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

金融商品の公正価値ヒエラルキーは、レベル1からレベル3までを以下のように分類しております。

- レベル1： 活発な市場における公表価格により測定された公正価値
- レベル2： レベル1以外の、観察可能な価格を直接又は間接的に使用して算出された公正価値
- レベル3： 観察可能な市場データに基づかないインプットを含む、評価技法から算出された公正価値

公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーは、以下のとおりです。

前年度 (2021年12月31日)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
デリバティブ資産	—	7,362	—	7,362
株式	19,988	—	7,804	27,792
その他	562	6,518	7,725	14,805
合計	20,550	13,880	15,529	49,959
デリバティブ負債	—	10,926	—	10,926
合計	—	10,926	—	10,926

当第1四半期 (2022年3月31日)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
デリバティブ資産	—	21,492	—	21,492
株式	21,089	—	7,812	28,901
その他	599	7,618	8,317	16,535
合計	21,688	29,110	16,129	66,927
デリバティブ負債	—	21,442	—	21,442
合計	—	21,442	—	21,442

16. コミットメント

決算日以降の有形固定資産の取得に係るコミットメントは、以下のとおりです。

	前年度 (2021年12月31日)	当第1四半期 (2022年3月31日)
	百万円	百万円
有形固定資産の取得	28,817	33,923

17. 偶発事象

四半期決算日において、前年度に係る連結財務諸表に記載した内容から重要な変更はありません。

18. 後発事象

該当事項はありません。



## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年4月28日

日本たばこ産業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 丸地 肖幸

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石川 航史

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松下 陽一

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本たばこ産業株式会社の2022年1月1日から2022年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2022年1月1日から2022年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年3月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、日本たばこ産業株式会社及び連結子会社の2022年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。